

令和7年度 第2回 中能登町立中能登中学校 学校運営協議会 会議録

【日 時】	令和7年11月14日（金）14：35～15：40
【会 場】	中能登町立中能登中学校 2F会議室
【出 席 者】	大西 保、岡下 哲也、木村 実貴絵、鳥木 教文、水谷内 良郎 校長（50音順） 学校代表者：竹下 慶 教頭
【事 務 局】	学校教育課：横山主事 生涯学習課：寺西主査、中瀬主査、山口
【欠 席 者】	古玉 路子、藤田 典知 学校教育課：山森担当課長
【次回予定】	未定

【進行】中能登中学校：竹下教頭

1. 開会あいさつ

《大西会長》

こんにちは。第2回目の学校運営協議会ということで、今日は現在までの進捗状況の報告と防災教育に関する協議ということが主な内容になる。普段なかなか中学校の様子を知ることができないので、こういう機会を利用して、元気なお子さんたちのお話を聞くのも楽しみ。中学校の先生方には、「こういうことで力を貸してほしい」ということなどがあれば、少しでも力になっていきたい。よろしくお願ひします。

2. 令和7年度学校経営中間報告について ~水谷内校長より、資料を基に説明~

- 生徒のあいさつについて、徹底できていない。挨拶はコミュニケーションの始まりなので、学校としても大切にしていきたい。
- 不登校がなかなか改善できていないのが現状だが、今年度より、中学校でもホットルームを設置。教室に入れない子が、ホットルームに立ち寄っていることもあるので、今後も活用していきたい。
- 部活動地域展開について、部によって地域のサポートに差がある状況で、不安を感じている教員もいる。担い手探しも重要。
- 今後も、保護者・地域と一体となって、子どもたちにとって良い環境を提供していきたい。

※意見等なし。

3. 協議

①中能登しごと館について

研修部会、教員、生涯学習課事務局による体制で、計6回の打ち合わせを経て、11月1日に15講座が開催された。生徒は1年間で1人2講座を受け、昨年受けたものは受けない方針とし、3年間で6講座を受けられるようにと進めている。反省点としては、助産師になれるのは女性のみであることに加え、映像などを見ている際、男子生徒がいづらかったのでは？という意見も出た。

※意見等なし。

②部活動地域展開について

- 基本的には、ほぼすべての部活動に地域の方が指導に入ってくださっており、兼職兼業で指導に入っていたいている教員もいる。
- バスケットボール部・陸上部については、一部、平日も地域展開している状況。
- ソフトボール部…10月末から指導者4名体制でサポート
- 柔道部……………昨年度より、休日は地域クラブとして活動中だが、指導者確保に課題あり
- 吹奏楽部……………今年度中に文化協会に加盟し、地域展開していく予定

【意見等】

- 中能登中学校の現状としては、他の地域と比べてどういう状況なのか?
 - 地域展開については、1町1校なので、他の市町よりは比較的進んでいる。現在は休日の地域展開を進めているが、それぞれのクラブを統括する受け皿（総合型クラブ）を整備していく方針でいる。
 - 地域クラブが云々というよりは、日頃から外部指導者のサポートがあるので、とてもありがたい。生徒・教員、指導者が、お互いにWin-Winの関係なのではないか。やらされ感がなく、のびのびと活動しているのではないか。
 - 懸垂幕には子どもたちの名前が入っているが、地域の指導者の名前も入れることができたらいい。
- 地域展開はとても良い。担当教諭が転任した場合、子どもたちの気持ちも崩れる可能性もあり、学校生活の荒れに繋がることもあるが、地域の方に指導してもらうことで、学校生活との切り替えもでき、子どもたちが変わらず活動できる環境があることはとても良いこと。
 - 近隣市町ではうまくいっていないという話も聞いている。中能登町は、いろいろなところが協力し合って、良い流れで進んでいるのではないか。
- 昭和の人間にとては、スポーツの縦社会がものすごく強く、指導者が絶対というような強いイメージがあるが、それよりも子ども自身の豊かな生活に繋がる活動になってほしい。体罰や暴言などもまだ存在している。地域展開で指導される方々と、教員・生徒・保護者がコミュニケーションを深めていくために音頭を取っていく必要もある。どこかに窓口を設けることも必要。
- ジュニアスポーツクラブに通っている、ある小学生は、活動終了時間が9時なので、就寝は10時過ぎになる。小学生からすると、とてもハードだと感じるが、「宿題を出さないでください。」という要求もあり、学校からすると足並みが揃わない。低学年からそういう環境にあるということに、疑問がある。小学校は基礎を築くところなので、そういう面でも考慮していただきたい。
 - 遅くまで活動することは、ある意味、勝利至上主義なのではないか。指導者によって認識は大きく変わるが、理解してもらいたい。今後、どこが統括していくのかということも課題。

4. 防災教育について

文科省より、防災教育を義務化されており、小中学校でもこれまで避難訓練などを実施してきたが、教育課程にうまく盛り込ませながら、単年度で終わらせることなく、継続して学習できるようなものを、中能登町としても、中能登中学校としても企画・計画していきたい。
※中能登中学校では、まずは「初めの第1歩！」ということで11/7(金)に防災学習を実施。

【意見等】

- 例えば、小学校で簡易ベッド組み立て体験を実施した場合、中学校では内容を被せたくないという思いがあるが、避難所運営に関しては、中学生が運営者になりうるので、学年に限らず実施していきたい。
 - 事前にいただいた参考資料のなかには、中学生では対応できないものも書かれている。
 - 避難所設営の際、簡易ベッドはここにあったらいいなどの、シミュレーションゲームのような感じで学習していけたら良いのではないか。
- 避難訓練は校内にいる際に実施されることが多いが、学校にいない場合にどう行動するかということを伝えていく必要がある。避難する際、土足のままではウイルスが飛散しやすいので、消毒液をしみこませた雑巾を踏んで入館するなど、いろいろなことを想定していけたらいいのではないか。
- 訓練であっても、能登半島地震のトラウマや、フラッシュバックが起きる子もいるため、配慮は必要。七尾市では、熱中症になった子どもがいて、その後、周りの子が10人程過呼吸になっていたということもあった。

- 危機管理マニュアルと実際に起こることは違うと考えているので、2年生の学習で七尾市の方を講師にお招きし、「能登半島地震からの教訓」について講義していただいたのはとても良いこと。中能登町の避難所を開設した時のリーダーなど、実際に話を聞くことも必要だと感じる。経験された方のお話を聞くことで、子どもたちの意識も変わる。知っている方が多い時に、生の声を子どもたちに聞かせてほしい。
- 長曾川が氾濫することは想定されているのか？
 - 中能登中学校では、グラウンドに水が流れることになっている。教育活動中に災害にあうこともあるので、例えば、鹿寿苑の方と合同で避難訓練をしてみるのも、さまざまなことが学べるのではないか。
 - 長曾川付近の氾濫区域について、1000年に1度の大雨を想定した災害マップには、中能登中学校は浸水しないとされている。土砂災害に関しても、ハザードマップでは、中学校の敷地内にはかかっていない。
- 数十年前には、大雨が降り、土砂災害で中学生が亡くなったこともある。
 - 普段は考えもしないが、実際に起こりえないかもしれない事を想定して、準備しておく必要がある。

5. 閉会あいさつ

《岡下副会長》

冒頭に会長からもお話しがあったが、中能登中学校との関わりについて、どこまで関わりを持てるか分からないが、更に力になっていきたい。必要な時には、是非声をかけていただき、学校運営協議会委員としての使命を果たしたい。学校運営協議会としては3回目が残っているので、まとめられることができれば幸い。本日は活発な意見をたくさんいただき、資料も準備していただき、感謝しています。ありがとうございました。